

寺  
ごよみ

七  
月

一日 お講・音沢(4)  
八日 広島正覚寺清胤弘英先  
生ご一行ご来院

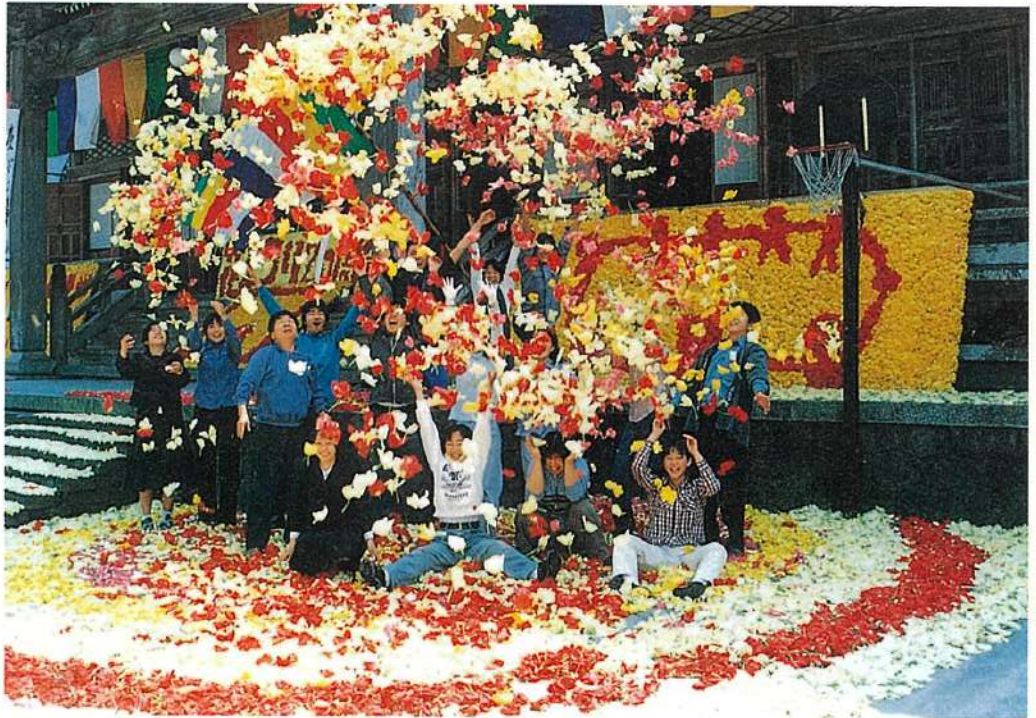
永代祠堂会

一六日朝十一時 お講・中陣  
昼一時 総代会・白鶴会  
物故者追弔法要  
一七日昼一時 寺族物故者法要  
夜七時半お初夜  
一八日昼一時 戦没者追弔法要  
一九日昼一時 内陣法名法要  
満座



寺報  
善巧

発行  
〒938 富山県下新川郡  
宇奈月町浦山497  
白雪山善巧寺  
TEL (0765) 65-0055  
FAX (0765) 65-0975



善巧寺花の誕生会二十周年 ばんざ〜い

七月十六〜十九日

永代祠堂会

布教 高務哲量先生

昭和四十九年、高槻市東五百  
住の行信教授で雪山隆弘さんと  
お会いした頃、膨大なコピーを  
手にされていたことが、鮮やか  
な印象として残っています。  
それは、明教院僧鎔師の書物  
でした。僧鎔師は十九歳で善巧  
寺に入寺され、浄土真宗のご法  
義の学問に励まれました。後に  
空華学派の祖として偉大な足跡  
を残されたお方です。  
コピーが今ほど良くな  
い頃で、値段も高かった  
のです。図書館を訪ね歩  
かれては、その著作を善  
巧寺にそろえようと苦心  
されていました。  
僧鎔師の著作の中に、  
心に残る御法語がありま  
す。「一滞録」に「教行  
信証」信巻別序の講義を  
終えられて、ふと、御恩  
と云うことを語られたのです。  
「…僧侶はご門徒の法事に参つ  
て、布施を頂き経を読む。その  
意は、浄土真宗においては、ご  
門徒も一銭の布施、一食の供養  
も阿弥陀如来や親鸞聖人へお供  
えをさせていただくと思うて布  
施をする。又、それを頂く僧侶  
の心得も如来聖人の御受けにな  
られた物をこの凡僧に下し給つ  
たと頂くばかり。飢寒をふせぎ、  
心やすく念仏させんがために給つ

雪山隆弘師と  
明教院僧鎔師

たと思つて、その御礼報謝のた  
めに一卷のお経あるいは「正信  
偈」を勤めるのも、施主のため  
に功德をつくるのではない、亡  
き人の追善とたむけるのではな  
い。ただこれ如来聖人の御恩を  
報ずる他はない。  
真宗のお寺は、日本諸国にい  
くらあろうとも、御開山はただ  
一人。御本山であれ末寺であれ、  
わが寺というものはない。すべ  
て御開山（親鸞聖人）  
の御寺を護持し相続し  
て、ご法義をすすめる  
ばかりである。その御  
開山の御徳によって、  
寒からずひもじからぬ  
ように仏祖の御養育に  
あずかる。これにより  
ていよいよ冥加を大切  
に思つて朝暮の勤行に  
御礼を申し、ご門徒の  
お方々にご法義をおすすめる  
のが良き僧侶である。…」(取意)  
隆弘さんは、まさに僧鎔師の  
ご述懐に生きられたのですね。  
御恩を、冥加を、お茶の間で、  
巧みな表現と、さわやかな笑顔  
をもつて語りあかされました。  
私には、ほかほかのお念仏  
を残して下さいました。

大阪・光照寺住職

若林 眞人師



# 空華忌



## 空華忌

### 高田慈昭先生ご講話

#### (その三)



この間、親戚の姪やら甥が結婚して、神式でやるといふ。仏教徒がなんでお寺でやらんのか、とやうて、私はいぶかしうつけたんです。最近のホテルではキリスト教のチャペルやお宮さんの設備も作っています。仏式のお寺の設備も作ってくれりゃあいいのに、これはもつと仏教界

が働きかけなくてはいかんのですね。京都の本願寺の横にある東急ホテルはちゃんと仏式の結婚式がありますよ。これは本願寺の真横やからなあ。なんで作らんのか、言うたら、線香の匂いがいかんと。何を言うところのか、線香ですごい良い匂いや、昔は香道というて文化的価値があった。それはともかくとしまして、ホテルだったらそこで神式やらですぐに結婚式をして、披露宴のパーティーもあるし、費用の面もなにかにつけて便利が良いからそうする。そんなこととするな、別院でやってそれからホテルへ行けと言うんですけれど、聞かない。ああいう神式結婚というのには実際おかしいですよ。

日本人の宗教感覚というのは本当におかしなもので、生まれた時は宮参りでお宮さんへ行く。結婚式と言うたらチャペルで教会に行く、死んだらお寺に来る。十二月から正月までは本当に目まぐるしく変わるな。十二月二十五日と言ったらジンゲルベルジンゲルベルってね、みんなキリスト教のクリスマス。三十一日と言ったらゴーンって除夜の鐘で仏教になる。夜が明けたらまたお宮さん行ってパンパンって初詣で、今度は神道に変わる。わずか十日間の間に日本人は三つの宗教にくるくる変わる。おもしろいですな。クリスマスチャンだしたら全部墓場までクリスマスチャンであればいい。神道なら全部神道で、仏教徒だったらゆりかごから墓場まで全部仏教でやるべきなんです。それが長い長い江戸時代からの習慣で、仏教、お寺と言ったら死んだ人を奉る所という風にしてしまった。これが大きな誤りでございますけれども。神式結婚というの、これも明治以後やね、むしろ戦後じゃないかなこれ。昔は仏壇の前とか床の間でみんな結婚式をしたもんですよ。お宮さん行って結婚式するというのははずっと後なんです。それが日本古来の習慣みたいなのにみんな錯覚

しているんです。そんなものじゃないんです。神式結婚というのは新しいんです。アメリカでもハワイでもそうですが、ブラジルの本願寺でもお寺でお葬式することが少ない。しかし結婚式は多いですよ。結婚式はお寺の本堂で何遍もやりましたよ。私も何遍も結婚しました。結婚式だけはやっぱり輪番さんが導師してほしい、司婚してほしいと言われますので。中には中年の外国人夫婦が結婚式にお寺に来ることがある。どうしたんや、と聞いてみたら、カトリックやと。カトリックは離婚は許さないんです。離婚して、そして再婚するでしょ、したら教会はやってくれないから、お寺に来るんですよ。お寺だったらなんでもやってくれるって。こちららも仏縁や、ご縁結びだと言って、よろしい、という訳です。そしてお数珠を渡して、拝むことも知りませんから、ちゃむんどういう風に手を通して拝むんですよ、お焼香もこうつまんで火の中に入れるんですよ、と言って全部教えるんです。誓いの言葉、これだけは私はポルトガル語で言いましたね。「ジュラメン」と言ってます。そして最後に法話をします。法話だけは日本語でしゃべります。あと通

訳がポルトガル語で言ってくれる。済んだら、「ムイットオリガード」と言って握手して「ムイットパラベンス、フェリーズエパラメンツ」おめでと、幸せにといいこと。そして手を合わせて涙をポロポロ流して、感激しておられるんですよ。これから仏さまのおみのりを聞いてください、おつとめしてください、聖典も渡しまして、お数珠を渡したら、「オブリガード」と言って帰ります。そういう仏縁も結ばれている結婚式は断然多いんですよ。日本は逆ですよ、日本はやっぱ明るい、めでたいこともどんどんお寺でやっていかなきゃいかん。もつとお寺も宣伝せんいかん。門徒の人も協力して宣伝せんいかん訳です。善巧寺さんは非常に活発にいろいろやっていらっしゃるかというこないですけどね。話は元に戻りますけれども、この勅命というのは天子さまの言われることはすべての人がそれに従うべきものである。そういうふうにお阿弥陀さまの仰せ、阿弥陀仏の救いは絶対的な慈悲を表す。例えて言いますならば、太陽というのとはどんなものも照らしていきます。好きなものを照らして気に入らんものは照らさない、そんなことはな

いです。分け隔てない、太陽なんてくすぐらえ、眩しいからあつち行つてくれ隠れてくれと叫んでおつても太陽はやつぱりその人を照らします。ということはずまり平等ということですね。すべてのものを平等に分け隔てなく照らす。背く者さえもその人を照らす。

「太陽にほえろ」というドラマがありましたね。亡くなった石原裕次郎がええ格好して、音楽もよかったです。私もよく見たもんなやけど題名がおかしいわね。太陽にほえろやて、どうすることや。太陽はびくともせんぞ。

昔、平清盛が太陽に向かって弓矢を放つたという話がある。織田信長みたいな奴もそういうことをやつとる。神も仏もあるもんかと言つて神仏に弓矢を放つとる。そして叡山を全山丸焼けにして長高門徒、何万という門徒を全部虐殺しとります。そういう恐ろしいことをした男もおります。太陽にほえろというのはこれは結局は悪い奴は太陽にほえるようなもので結局は自ら滅んでいくものじゃということを表しているんだと思いますね。そういう風に解釈したいんです。

中国の物語にありますよ、日曜学校の紙芝居でもやったこと



ある。太陽のない国と言う話。ある王さまがおつて、太陽が眩しくてかなわん、あんなギラギラ照らす太陽なんて好かん、太陽に向かつて、お前一遍ひっこんどれと言つた。そしたら太陽が、あそうかと言つて姿を隠した。そしたら今まで明るい昼があつたのに昼がなくなつて夜ばかりになった。夜が明けるといふのは太陽が昇つたから夜が明けるのよ。夜が明けたから太陽が出たのと違います。これもご安心の問題で大事な例えで言われる所や。我が心が明るくなつたか、明るくならんか、そんなことの問題よりも、如来さまの本願が成就されたか、されてないかということを見なきゃならん。夜が明けたから太陽が出たんじゃない。太陽が昇つたから夜が明けたんです。だから太陽が姿隠してしまつたら、もう昼はなくなつた、夜ばかり、そうすると人間は生きておれません。寒いだけじゃない、たんぼも畑も草も木もみんな萎れてしまつて、育たなくなつてしまつて、食べる物もなくなつてしまつて、人間は暗がりの中に心がしぼんでしまつて。とうとう国が減びさうになった。これは大変だと、いうことで王さまが、私の考えが間違つておつたということ

太陽に謝つた。太陽さんすみません、私の考えが間違つておりましたから、また照らして出ておくれと頼んだ。そしたら太陽が、あそうかと言つてまた照らしはじめた。そしたら世の中が一遍に明るくなつて、作物は実るし、国が元通りになつたというお話が子供の物語にもあるんです。

考えてみると、これは大きなことなんです。私たちは太陽の恵みということに当たり前にしてますが、昔は太陽、日の出を拝んだりした人もあるんです。太陽の恵みがなかつたら人間は生きていけないんですよ。その太陽に背くということはこれはもう自分自身が滅んでいくことを意味します。この王さまと同じことです。太陽に背いたら我が身自身が滅んでしまつて、それが太陽というものは絶対的な役割を持つておる。しかも高い山も照らす、深い谷間にも照らす。また汚いものも照らすしきれいなものも照らす、すべてのものを分け隔てなく育てていく。その太陽の恵みというもの、これは絶対的なものです。反抗しても反抗しても反抗できないものであるわけです。ことわりのきかないという世界がある。わかりますね。阿弥陀さまなんて

くすぐらえ、なんて反抗しても、背いてもやつぱり阿弥陀さまはその人を照らしておつてくださる。つまりことわりのきかぬ、そういう絶対的なお慈悲であるということ、これを表すために親鸞聖人は特に阿弥陀仏の救いというもの、一切衆生すべてのものを善人も悪人も罪の深い者もそうでない者もみんな分け隔てなく平等に救うていくお慈悲であるとおっしゃっている。「老少善悪の人を簡ばれず、ただ信心を要とすとすべし」老少善悪の人を簡ばれない、差別しない。若い者も年寄りも賢い者も愚かな者も濁つた心を持つておる愚かな者も悪人も善人もみんな平等に分け隔てなく救うてくださる。しかもその救い方はできる者よりもできない者に、賢い人よりも愚かな人、善人より悪人にとつてのが仏さまのお慈悲であります。

蓮如さまと  
六月十五日、新川文化ホールで前進座の「蓮如」が上演されました。楽屋にかけた花の会会員は、蓮如役の嵐圭史さんに気軽にサインしてもらつてもう大よろこびでした。

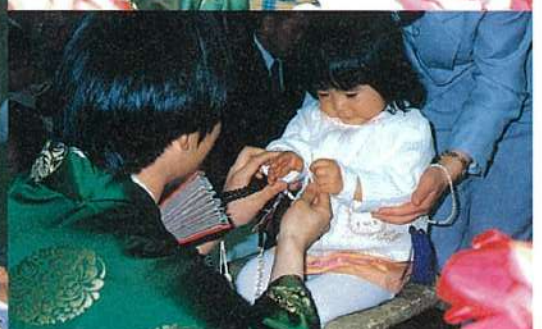




高田先生の著書が出版されました。

南米開教体験記  
**オブリガード**  
(ありがと)

発行所 百華苑  
定価一、六〇〇円  
送料三〇〇円





第二十回記念 花の誕生会

さわやかに晴れ上がった四月二十八日、チューリップがいつぱいの中で、善巧寺二十周年記念花の誕生会が催されました。第一回の初まいは昭和五十二年五月一日、何といつても子供のころからのお育てが大切とはじ

められたものですが、こうして二十回目を迎えることができたのは本当にありがたいことです。二十年前に初参式をうけた子が五人、今年はお父さんお母さんになってわが子を連れてきてくれました。

- 浦江 彩子(真人・一英夫妻)
- 川瀬 直也(幹男・芳美夫妻)
- 野崎まなみ(亨・みどり夫妻)
- 新保 竣也(博常・久美子夫妻)
- 本波 祐章(睦・葉子夫妻)
- 西島 大雅(靖士・邦子夫妻)
- 土肥 直貴(進・典子夫妻)
- 中田 綾香(利明・広美夫妻)
- 川上 勇志(裕史・優子夫妻)

(敬称略)

のびよ  
のびよ  
ぐんぐん  
のびよ  
わかめのように



われらは  
ほとけの  
こどもなり  
うれしいときも  
かなしいときも  
みおやのそでに  
すがりなん







ほとけの  
こどもは  
ひかりに  
そだつ



ほとけの  
こどもなり  
おとなぎこども  
おいたるときも  
みおやにかかわらず  
つかえなん







もうすぐ宮崎田野町！

# 雪ん子劇団宮崎公演

はじめての空の旅 6/21～23

西導寺のみなさん  
ありがとうございました



大阪空港から空路宮崎へ



歓迎 雪ん子劇団御一行さま



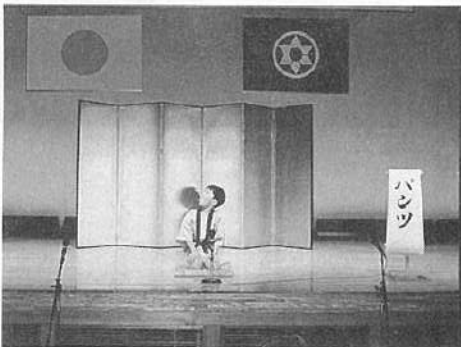
田野町にある親鸞聖人像



西導寺本堂前で



本願寺でのおあさじ



田野町文化会館での公演



西導寺のみなさん さようなら ごきげんよう

# 第十九回 落語会 野休小落語会

6. 11



毎年恒例の専精舎も、今年で僕にとって四回目となる。「専精舎」とは行信教校の一番大きな行事で、学生は全員泊まりこみ、また、行信教校に縁のある方々が全国各地から集まって、五日間にわたって行われる、一大イベントだ。

学生は、専精舎がスムーズに行われるよう班分けされ、行事の進行を行う。僕は同行班という班で、全国からお参りに来られるお同行のお世話をするわけだが、その仕事の中の一つに、朝夕のお参りをして、短い法話をする、というのがある。

専精舎三日目のお参り当番は三年目の小川君。彼は数日前か

ら何を話そうか頭を悩ませていた。なにしろここのお同行は、僕らが生まれるずっと前から、すばらしい先生方の話を数多く聞いている。学生の一部の間では、密かに「スベシヤルお同行」と呼んでいた。

結局、彼は悩みに悩んで、この学校に来ることになったご縁の話をした。その話の中で「三年間ここで学ばせていただいてようやく、この僕の口からお念仏が出てくるようになりました」と彼が言ったその時、一人のおばあちゃんが「おめでどう」と言われ、そ



若院雑感

れに合わせてまわりのお同行からおめでどうとお念仏の声かひるがっていったそう。他人の喜びに自分も喜び、他人の悲しみに自分も悲しむ。そういう心がもてた時、それはもう他人とは呼ばないだろう。浄土真宗には「御同朋御同行」という言葉があるが、まさにこのことだ。あのおばあちゃんはお念仏の仲間がまた一人増えたことを、素直に「おめでどう、よかつたね、うれしいね」と喜んでい

る。なかなか出来ないことだと思ふ。どちらかというと、他人の喜びをねたみ、他人の悲しみに喜んでるのが本当の僕のようだ。お同行の方々、僕らの何十倍もお説教を聞いているから、知識も学生以上にあるだろう。でも、そんなことをひけらかすようなことは決してしない。ただ、「うれしいね、ありがたいね」と生きている。浄土真宗の教えに育てに育てられた人を目のあたりにして、自分がとてもはずかしく思えた。普段の生活の中で、自分をはずかしい、と思う心が少なくなっている僕にとって、とても意味のある専精舎であった。僕もいつかあんな人になりたいいな。

## 前住職 だより



古丸谷のつばに生けたる  
あじさいの玉  
わがへやのあかつきの色  
桜桃忌  
後之

デイサービスに、シヨートステイにと、おらはうすにお世話になることの多い前住職ですが、前坊守のおかげで元気に日々を過しています。

## お世話芳草むしり

六月八日、落語会を間近に控えて、境内、庭の草むしりが行われました。小人数でしたが、草刈機も使用して短時間にさっぱりときれいにして下さいました。お世話下さったのは左記の方々です。ありがとうございます。  
野島重一、本波光雄、山内健二、田中まつゑ子、河村とし、野島はつえ、菊地れい、大藪富美子（敬称略）

## 寺こよみ

### 八月

## 寺こよみ

### 九月

- 一日 お講
  - 二三日 青年の集い
  - 四日 盆踊り練習会
  - 五日 こども盆踊り
  - 六日 盆会
  - 一七日 十七夜お経会
  - 一九日 雪ん子福井公演
  - 二〇日 雪ん子合宿
  - 二四日 雪ん子夏の定期公演
  - 三二日 雪ん子緑化フェア出演
- 
- 一日 雪ん子黒部公演
  - 一六日 隆弘法師七回忌法要
  - 一七日 シタールとお説法の夕べ
  - 一七日 十七夜お経会
  - 二九日 富山国民文化祭始まる



# 永代祠堂会

七月十六〜十九日

今年も七月十六日から四日間永代祠堂会がつとまります。お寺を護る門徒の皆さん全員のご先祖のご法事です。毎日特別法要がつとまりますので必ずおまいりください。

ご講師 千福寺住職 高務哲量先生

総代会・白鶴会物故者法要 七月十六日午後一時

亡くなられた総代会さんのご家族と現総代会さん。白鶴会物故者のご家族と白鶴会会員はお焼香していただきます。

寺族物故者法要 七月十七日午後一時

善巧寺、法輪寺、照行寺の物故者法要です。

お初夜 七月十七日夜七時半お初夜

戦没者追弔法要 七月十八日午後一時

戦没者のご家族、ゆかりの方々にお焼香していただきます。

内陣法名法要 七月十九日午後一時

お満座は内陣法名法要をつとめます。特別懇志志納の方の内陣焼香があります。



## 隆弘法師七回忌法要

九月十六日午後二時  
法話 行信教学校長

利井 明弘先生

## シタールとお説法の夕べ

九月十六日 夕  
シタール 弘 雄介氏  
お説法 若林 信人氏



## 清掃奉仕おねがい

七月六日 あさ八時

永代祠堂会を迎える清掃奉仕を行います。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 盆会 青年の集い

八月十三日 夜七時半

善巧寺門信徒の中学生以上の青年たち集まれ！  
本堂で音楽法要のあと、境内、会館で親睦会。お寺から遠い青年たちも是非参加してください。あなたのお寺善巧寺は楽しくつろげる憩いの場所です。

## ご盆おどり

八月十五日 夕

あみださまに見守られて大銀杏樹の下の盆おどり。今年は、二十周年です。



## 盆会

八月十六日

午前十一時からお盆のおつとめ。法話は善巧寺若院です。その後、総代懇親会があります。

## 雪ん子劇団夏の定期公演

八月二十四日夕 お寺座

そのほか

八月十九日 福井公演

二〇日 合宿

三一日 高岡緑化フェアー

九月 一日 黒部公演

と、あまりのいそがしさにどれか一つでも省ければと父兄と相談中。九州福岡からの依頼もありました。売れっ子雪ん子劇団、ゆめいっぱい雪ん子です。

## ご寄進

入善町板屋

嶋田 勲さんより

蓮如上人回忌記念大五条



## 合掌

夢のように思っていた宮崎公演がついに実現しました。はじめて飛行機に乗った子が(大人も)大はしゃぎ。宮崎空港には「歓迎雪ん子劇団」の大きな横断幕。田野文化会館はじまって以来の超満員の客席は熱気にあふれ、舞台と客席が一つに溶け合いました。あつたかいあつたかいおもてなしをいただいで最後はシーガイアで海水浴。西尊寺のみなさん、すばらしい夢をありがとう。

\* \* \*

公演前日は京都に一泊して、ご本山のご晨朝におまいりしました。びっくりするほど沢山の参詣の方につられて雪ん子の口からお念仏が…。翌朝の西尊寺さんのおあさじでもお念仏がでていました。

\* \* \*

「孫たちと手がまっかになるまで拍手しました。心が洗われました。またお会いしたいです。」  
上村すずえさんから、こんなお電話をいただきました。

